

トピックス

安全体感教育
中央可鍛工業株式会社

弊社では、安全教育の一環として個々の安全に対する意識向上に向けて、体感教育を行っております。狙いとしては、「自分の身は自分で守る」という個々で考え行動するという自立を目指し、年度内に全社員1回の受講を進めております。初年度は、13ブース1.5時間の教育となっております。

弊社の特色として、製品が鋳物であり重量物となります。製品移動の手段として、フォークリフトを活用しておりますが、リスクアセスメントにフォークリフトが出てくると必ず危険源として高いリスクになってしまうのが現状です。高いリスクの中で重要なウェイトを占めるのが人であります。

体感教育カリキュラムの中から「フォークリフト死角体感ブース」を例に挙げます。教育の中では、フォークリフトでの過去トラを周知するとともに、乗らない方達も含めて、肌で感じ考えてもらう場として運転者側と歩行者側の両面で考えさせる事をキーとしております。

フォークリフトの運転席に座り、どこが見えて、どこが見えないのかの死角を体感後、歩行者側になった場合にどこが死角になっているのかを確認し認識をして頂いております。今後も教育システムも含めて更なるレベルアップを図り人材育成を進めます。



体感教育<フォークリフト死角体感ブース>



擬似人間<フォークリフトの運転席から見ると死角に入り見えない位置にあります>



各職場のドレスコードマップと使用保護具の展示



受講風景